
最後の泣き顔

ぱくどら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の泣き顔

【Nコード】

N7908B

【作者名】

ぱくどら

【あらすじ】

死に逝く者の最後の想い。別作品である、赤い瞳の番外編です。この作品よりも先に赤い瞳を読んだほうが理解しやすいかもしれません。

(前書き)

一応赤い瞳に出てくるキャラ名は出していないので、読んでいなくてもわかるかもしれません。

が、やはり先にお読みいただいたほうが、より理解しやすいと思います…。

暗い。なにも見えず、なにも考えられない。わかることは俺一人だけということ。

痛みが遠のき始めたと思ったら、この空間に放り込まれた。なぜだろう、ものすごく寂しい。

俺はなぜここにいいのか、なぜ俺は一人なのか、なにもわからなくなってしまうた。

：なにか遠くで俺の名を呼ぶ声がする。懐かしい声。聞きたかった声。：思い出す愛しい顔。



意識が戻ると同時に、全身に痛みが走る。焦点が合わず光が異常にまぶしい。

やっとのことで見えたものは：泣き顔。愛しい人の顔。

その瞳から涙が溢れている。何回と見てきた泣き顔。

ああ：また俺が泣かしてしまったのだ。守ると誓ったのに：結局俺が彼女を困らせている。

彼女は必死で俺を呼びとめようとしてくれる。俺もそれに応えたい：だが全身がいうことを聞かない。

手に温もりを感じる。彼女の温もり。せめて…この手だけでも彼女に応えたい。

彼女との誓いは果たせたのだろうか、そんな問いに彼女は温もりで返してくれる。

温かい。あの空間に戻らずにずっと彼女を感じていたい。

だが、彼女の泣き顔がぼやけ始める。輪郭を失い、声さえも遠のく。

最期、俺が彼女のためにできること。

彼女の幸せ。それを願うこと。

意識が遠のき、次第に光が失われる。温もりさえも…遠くなる。

幸せに。

彼女が寂しくないように俺は笑顔で見送る。

愛しい君。

最後まで泣かせてしまって申し訳ない。でもそんな君も好きだったんだ。

最期まで君と一緒に嬉しい。

俺の分まで幸せに。俺の分まで生きてくれ。

(後書き)

お読みいただきましてありがとうございます！

よろしければ感想評価をお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7908b/>

最後の泣き顔

2010年10月21日21時04分発行